田中友義先生・土方幹夫先生・前山加奈子先生を送る

経済学部長　大　森　一　宏

長年にわたり経済学部の発展に尽力され，私ども後輩教員の先導的立場にあった先輩教員である田中友義先生，土方幹夫先生，そして前山加奈子先生が2013年３月をもって退職される。

この内のお一人である田中友義先生は，1963年大阪外国語大学(現大阪大学)外国語学部フランス語学科卒業後，日本貿易振興会（現　日本貿易振興機構；ジェトロ）に入職され，その後，通商産業省（現経済産業省）通商政策局西欧中東アフリカ課課長補佐，ジェトロ・パリ・センター次長，ジェトロ経済情報部部長代理，財団法人国際投資研究所研究主幹などを歴任された。さらに山梨学院短期大学経営学科助教授，同教授を経て，2001年本学経済学部教授に就任された。

本学就任後の先生は，精力的にヨーロッパ経済に関するご研究に取り組まれて数多くの著書や論文を発表された。そのお仕事の充実ぶりは，毎年この「経済論集」に記載される研究業績の欄からうかがい知ることができ，私ども後輩たちの模範となっていた。また，所属される日仏経営学会と日本EU学会では，それぞれ会長，理事の要職を務められた。そうした高い学識をいかして，本学では2004年から2006年まで経済研究所所長，そして2008年から2010年まで大学院経済学研究科科長の任にあたられ，学部・大学院の研究水準の向上に尽力された。とりわけ研究科科長として，大学院のカリキュラム改革や定員確保に努められ，大きな成果をあげたことは記憶に新しい。さらに，社会における活動にも熱心に取り組まれ，飯能市行政改革推進委員会委員，さらには同委員会会長として長年活躍された。2012年には，その顕著な功績に対して飯能市より表彰を受けている。先生の豊富な実務の経験をふまえた経営分野での講義や演習は，多くの学生の人気を集めていた。

土方幹夫先生は，1966年東京教育大学体育学部卒業後，東京都立高校教諭などを経て，新潟大学教育学部講師，同教授，神戸商船大学教授などを歴任された後，1990年本学経済学部教授に就任された。本学では，主に健康・スポーツ

やボランティア関連の科目を担当され，野外活動を取り入れたユニークな教育を実践された。演習に参加する学生などを引率して合宿を行い，カヌーツーリングなどを体験させて，実際に自然環境を認識させる斬新な取り組みは，本学の名物授業であった。また，監督として指導された本学カヌー部とスキー部の育成に手腕を発揮されて，オリンピック選手をはじめ幾多の名選手を輩出したことも特筆される功績であろう。

また，NPO法人新潟水辺の会理事，財団法人日本海洋スポーツ普及振興教育財団評議員，NPO法人海の駅まち創り委員会委員長，NPO法人野外教育研修センター「魚沼伝習館」理事長，財団法人日本安全カヌー協会（JASCA）顧問など多くの団体の役職を務められたことからわかるように，社会活動にも力を入れておられた。入間川での障害者カヌーの活動やキャンパス内でのビオトープの創生にも尽力されるなど本学の地域貢献に果たされた役割も，きわめて大きなものがあった。温厚でユーモアに富んだお人柄から，先生は本学部のムードメーカー的役割も果たされた。学部の懇親会の締めの音頭は，先生がとられるものと決まっていた。

前山加奈子先生は，1968年東京都立大学大学院人文科学研究科中国文学専攻修士課程を修了された後，和光大学や東京女子大学で非常勤講師をされ，さらに中国湖南省湘潭大学外国語学部日本語教育研究室専家（専門教員）として日本語を教えながら中国研究を進められた。その後，駒澤大学，東京学芸大学，明治学院大学，本学法学部などの兼任講師を経て，1990年本学経済学部助教授に就任，さらに1994年に本学部教授に昇任されて現在に至っている。

先生は，近現代中国の社会文化史の研究者であり，ご専門の分野において多くの著書や論文を発表された。中国女性史研究会代表，世界文学会評議委員・理事・編集委員，ジェンダー史学会顧問など学会・研究会の要職を務められたことからもうかがわれるように，中国の女性史をはじめとするご研究の水準は学会においてきわめて高く評価されてきた。その高い学識をかわれて，NHKにご出演されて解説を担当されたり，日本経済新聞に寄稿されるなどマスコミに登場されることもあった。また，本学の教育に関しては，2011年から外国語教育センターのセンター長を務められ，語学教育の充実に尽力された。レベルの高い研究を通じて教育の質を上げていくという大学教員の使命を見失うことなく，教授会などで筋の通った発言を的確に行う先生の研究者・教育者として

の姿勢は，私ども後進のお手本となっていた。また，多趣味な先生は，学部の懇親会の幹事の際には，プレゼントの交換を取り入れて場を盛り上げるなど，バランスのとれた遊びの感覚を持ち合わされているように拝察された。

大学を取り巻く環境が厳しさを増すこの時期に，学徳ともに高く経験豊富な３名の先生が本学部を去られることはたいへん大きな財産を失う痛手である。私どもは，先生方が本学に残された功績を大切にしながら，今後の学部の発展に役立てたいと思う。先生方の長年にわたる多大なご尽力とご貢献に衷心より感謝申し上げるとともに，今後のますますのご健勝，ご活躍を心より祈念いたします。